

2026年卒の採用広報解禁から1カ月が経つが、就職戦線はどのように進んでいるだろうか。キャリタス就活・学生モニターを対象に、4月1日現在の就職活動状況について調査を行った。前年同期調査や先月（今年3月調査）の結果とも比較しながら、現状を分析する。

1. エントリー社数と会社説明会の参加社数

- 一人あたりのエントリー社数の平均は21.8社。前年同期調査（22.6社）よりやや少ない
- 説明会参加社数は、オンライン12.6社、会場型4.8社

2. 会社説明会の適切な所要時間

- 会場型・ライブ配信は「1時間～1時間30分」を望む学生が多い。オンデマンドは短めを希望
- 参加して不快だったこと、1位「内容に乏しい」、2位「長すぎる」、3位「カメラON」

3. 選考試験の受験状況

- ES提出、筆記試験、面接試験とも約9割が経験。最終面接は7割が経験
- ES提出社数は前年を下回る（平均10.8社→9.7社）。筆記試験と面接社数も減少
- 「ESの締切が早過ぎて応募できなかった企業がある」学生は半数に上る（49.9%）

4. 4月1日現在の内定状況（※）

- 内定率は64.9%。前年同期実績（62.8%）を2.1ポイント上回る
- 就職先を決めて活動を終了したのは全体の2割強（24.6%）。7割が就職活動継続（計70.5%）
- 内定業界は「情報処理・ソフトウェア」に集中

5. 本命企業（第1志望）の選考状況

- 「本命企業の選考はこれから」22.2%、「現在受けている」27.0%
- 本命企業の選考が終わったという回答が4割（計41.0%）で、前年よりさらに増加

6. 就職活動継続学生の動向

- 現時点の志望業界1位「情報処理・ソフトウェア」、2位「インターネットサービス」
- 今後の活動方針、「エントリー企業中心」（32.7%）、「新たな企業を探す」（29.2%）
- 就職活動を終えたい時期は、今年も選考解禁後の「6月後半」が最多（21.2%）

7. 魅力を感じる採用形態

- 「総合職採用（メンバーシップ型）」が最多。「初期配属確約採用」は増加傾向

※「インターンシップ」に限定せず、オープン・カンパニー等も含めて尋ねた
※「内定」には、内々定を含む

調査概要

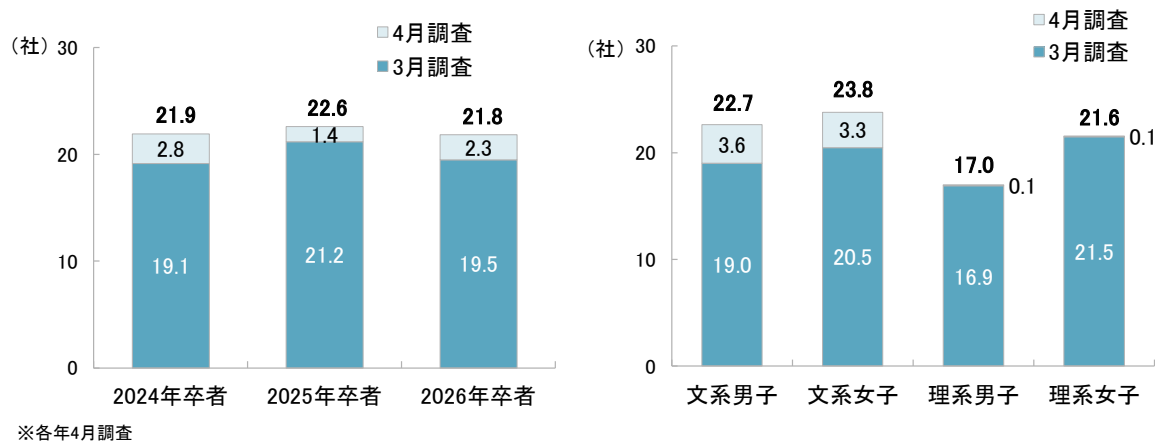
調査対象：2026年3月に卒業予定の大学4年生（理系は大学院修士課程2年生含む）
回答者数：1,134人（文系男子226人、文系女子486人、理系男子267人、理系女子155人）
調査方法：インターネット調査法
調査期間：2025年4月1日～6日
サンプリング：キャリタス就活 学生モニター2026
調査実施：株式会社キャリタス/キャリタスリサーチ

1. エントリー社数と会社説明会の参加社数

企業の採用広報開始から1カ月が経過した。2026年卒者の就職活動はどのように進行しているだろうか。4月1日時点の活動量から見てみよう。

一人あたりのエントリー社数の平均は21.8社。この1カ月で2社あまり増えたが、3月調査に引き続き前年同期実績を下回った。文理男女別に確認すると、文系女子が最も多く(23.8社)、次が文系男子(22.7社)。ともに先月から3社以上増えた。理系は先月からほとんど増えておらず、新しい企業に目が向きにくい学生が多かったようだ。

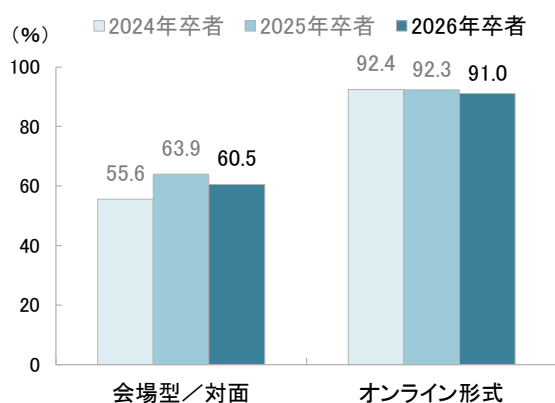
<エントリー社数>



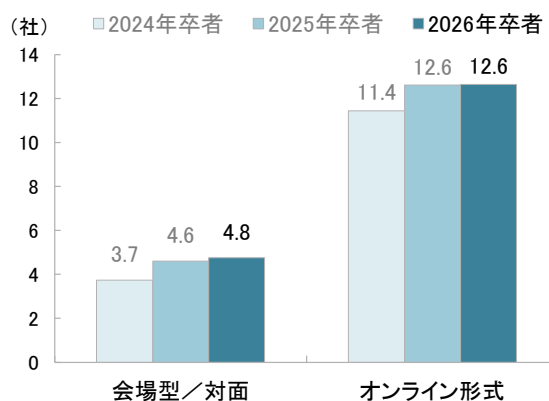
会社説明会(個別企業のセミナー)の参加状況を、開催形式ごとに尋ねた。「オンライン形式(WEBセミナー)」への参加経験を持つ学生が今年も9割を超え(91.0%)、会場型は6割以上が参加(60.5%)。

参加・視聴社数の平均はオンライン形式が12.6社で、会場型が4.8社。会場型は前年(4.6社)をやや上回った。

<会社説明会 参加・視聴経験>



<会社説明会 参加・視聴社数>



<会社説明会 参加・視聴社数/属性別>

	(社)					
	全体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
会場型参加社数	4.8	4.6	5.0	5.2	4.2	3.2
オンライン形式視聴社数	12.6	12.6	11.9	15.0	9.8	11.7

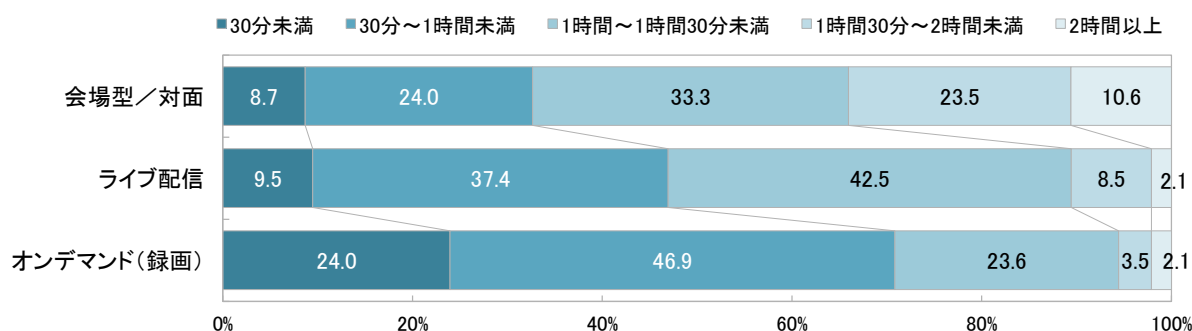
2. 会社説明会の適切な所要時間

学生から見て適切だと思う会社説明会の所要時間を形式別に尋ねた。

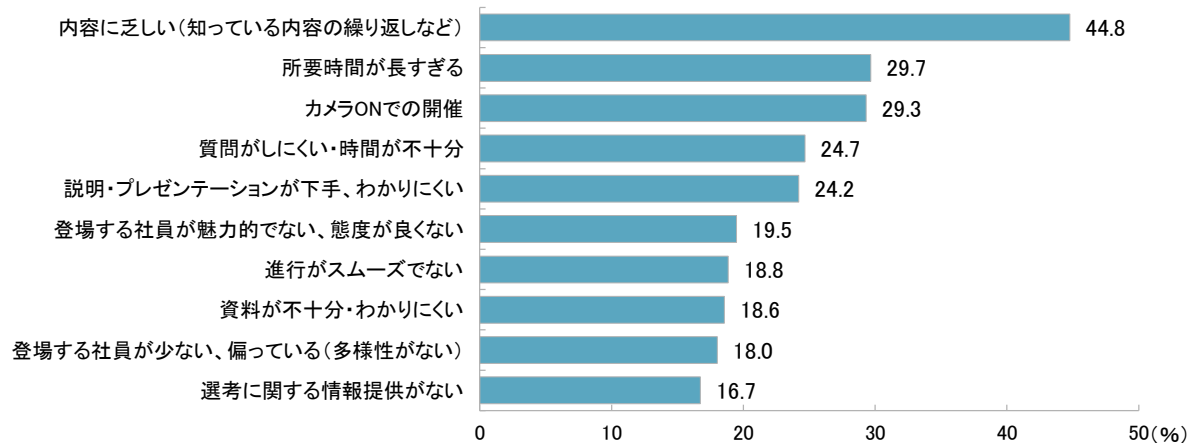
まず会場型は「1時間～1時間30分未満」が最多だが(33.3%)、「1時間30分～2時間未満」が2割を超えるなど(23.5%)、他の形式に比べると長時間を選んだ学生が多い。ライブ配信は「1時間～1時間30分未満」(42.5%)と「30分～1時間未満」(37.4%)が多く、8割を占める(計79.9%)。オンデマンド配信は3つの中で最も短い時間が好まれ、約7割が1時間未満を選んだ(計70.9%)。双方向性のコミュニケーションができない録画形式では、短時間での開催を求める学生が圧倒的に多い。

実際に参加(視聴)したセミナーで不快に思ったことを複数回答で尋ねたところ、「内容に乏しい」(44.8%)に続き、「所要時間が長すぎる」(29.7%)が2番目に多かった。「カメラONでの開催」が僅差で3位(29.3%)。

<会社説明会の適切な所要時間>



<会社説明会で不快に思ったこと>



※全18項目からあてはまるものをすべて選択。うち、上位10位まで ※不快に思ったことがある者が回答

■実際に参加した説明会の感想

【印象がよかったもの】

- ほぼすべての部門の社員が登場し、詳しい説明があった。具体的な仕事内容をイメージできた。 <理系女子>
- 1時間で、企業の概要から選考の情報までコンパクトに伝えていただけた。 <理系男子>
- どんな人材が欲しいのかをかなりはっきりと述べていた。個人的にはよい印象を受けた。 <文系男子>
- 企業説明以外にも社内見学会があり、実際に働いている方の雰囲気を感じられた。 <文系女子>

【印象が悪かったもの】

- 人事制度の説明ばかりで実際の会社の中身の説明が乏しい。 <文系男子>
- とにかく長い。説明会中に動画を流すなら自分で好きな時に見るのでやめてほしい。 <文系女子>
- 質疑応答の時間がほぼないのにカメラONが強制だった。 <理系男子>

3. 選考試験の受験状況

選考試験（本選考）の受験状況を確認したい。エントリーシート（ES）の提出、筆記試験は全体の9割以上が経験。面接試験は9割弱（87.1%）、最終面接は7割の学生がすでに経験している（71.9%）。

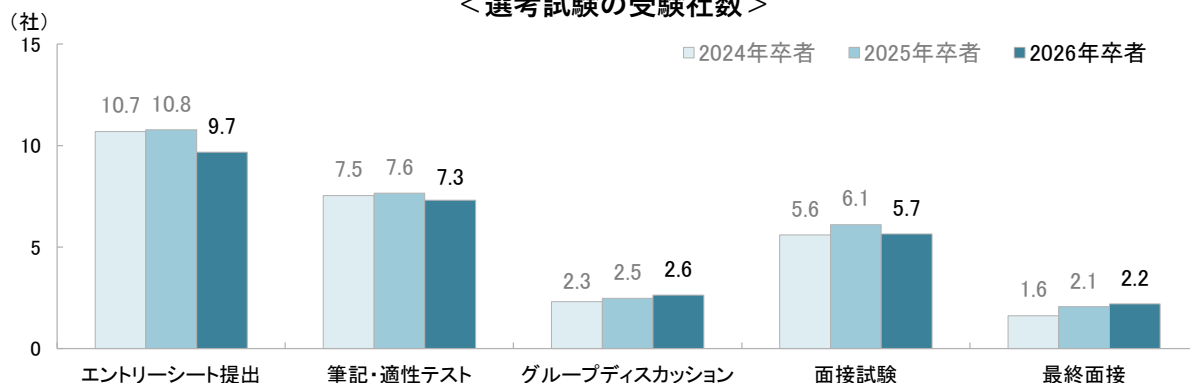
受験社数を見ると、ESの一人あたりの提出社数は平均9.7社で、前年同期（10.8社）より1社以上少ない。筆記試験、面接の受験社数も前年を下回り、エントリー社数の減少に伴って減少した。

あらかじめ企業を絞り込んでいるだけでなく、早期化が進む企業の動きに対応できていないケースもあるようだ。「ESの締切が早すぎて応募できなかった企業がある」と回答した学生は約半数に上る（計49.9%）。特に文系学生において割合が高い。

< 選考試験の受験状況 >

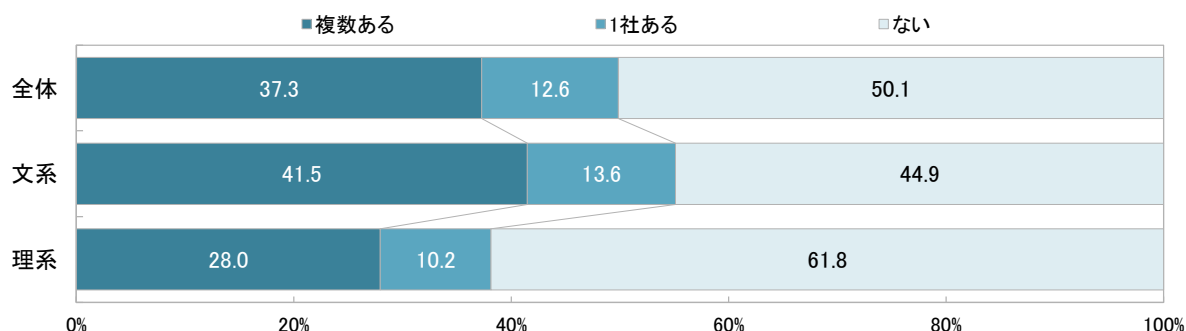
	全体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリーシートを提出した	92.5	92.8	92.3	91.8	92.1	96.1
筆記・適性テストを受けた	90.5	90.9	88.7	92.4	89.0	92.3
グループディスカッションを受けた	42.9	46.8	48.2	45.0	33.7	36.8
面接試験を受けた	87.1	89.4	85.1	86.6	88.3	92.3
最終面接を受けた	71.9	72.9	68.9	67.8	80.7	78.7

< 選考試験の受験社数 >



※「最終面接」は、「面接試験」受験者を分母に算出。それ以外は、それぞれ受験者を分母に算出

< ESの締切が早すぎて応募できなかった企業の有無 >



■3月の就活を振り返って（忙しかった学生の声）

- 本選考が一斉にスタートしてESなども一気に締め切りが迫ってきた。 < 理系男子 >
- エントリーシートを書いたり、面接を受けたりして、何もやらないという日はなかった。 < 文系男子 >
- 1日の一括エントリーから、エントリーシート提出までの期間が短かった。 < 理系女子 >
- 早期選考と違い、本選考から参加する企業は情報収集の必要性が高く、その分時間がないと感じる。 < 文系女子 >

4. 4月1日現在の内定状況

4月1日の調査時点で内定を得ている学生は全体の64.9%。先月調査(3月1日)の47.7%から1カ月間で17.2ポイント増え、6割台半ばに達した。解禁後に就職戦線が加速した様子が読み取れる。前年同期(62.8%)に比べ2.1ポイント高く、前年にも増して早いペースで進行している。文理男女のいずれも前年同期実績を上回るが、内定率は文系より理系で高く、理系は男女とも7割に達している。

内定を得た企業の7割近く(68.9%)がインターンシップ等のプログラムに参加していた企業であり、この比率にここ数年大きな変化は見られない。インターンシップ等への参加有無に関わらず内定時期が早まっていることが推測できる。(グラフは次ページに掲載)

内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは37.9%。前年同期調査(33.3%)を上回り、内定後の意思決定のタイミングもやや早まっている。とりわけ理系は5割を超え、内定獲得後の決定状況も文理での差が目立つ。

< 4月1日現在の内定状況 > *「内定」には、内々定を含む

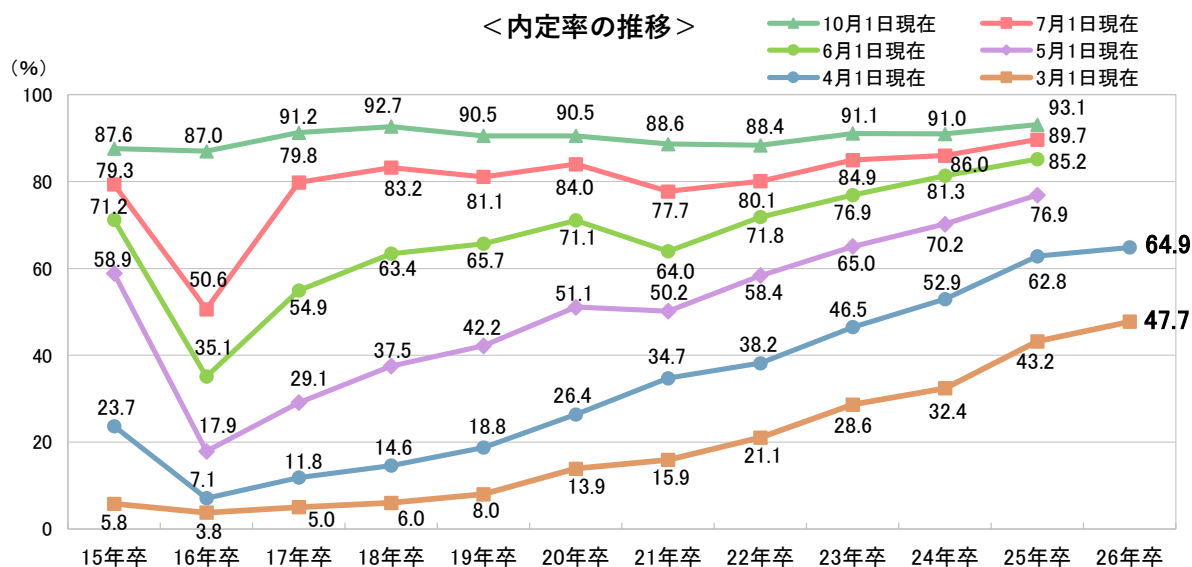
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		64.9 (62.8)	59.3 (55.8)	60.9 (57.4)	76.4 (71.9)	73.5 (72.1)
内定なし		35.1 (37.2)	40.7 (44.2)	39.1 (42.6)	23.6 (28.1)	26.5 (27.9)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	37.9 (33.3)	30.6 (21.9)	26.7 (17.2)	56.4 (51.1)	50.9 (47.6)
	活動は終了したが複数内定保持	7.1 (4.9)	6.7 (3.4)	8.1 (4.7)	6.9 (5.8)	6.1 (5.6)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.5 (0.1)	0.0 (0.0)	0.7 (0.0)	0.5 (0.4)	0.9 (0.0)
	就職活動継続	54.5 (61.7)	62.7 (74.7)	64.5 (78.1)	36.3 (42.7)	42.1 (46.8)

(%)

		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		2.1 (2.0)	2.2 (2.0)	2.1 (2.0)	2.0 (2.0)	1.9 (2.0)

(社)

※ ()内は前年(4月1日現在)の数値



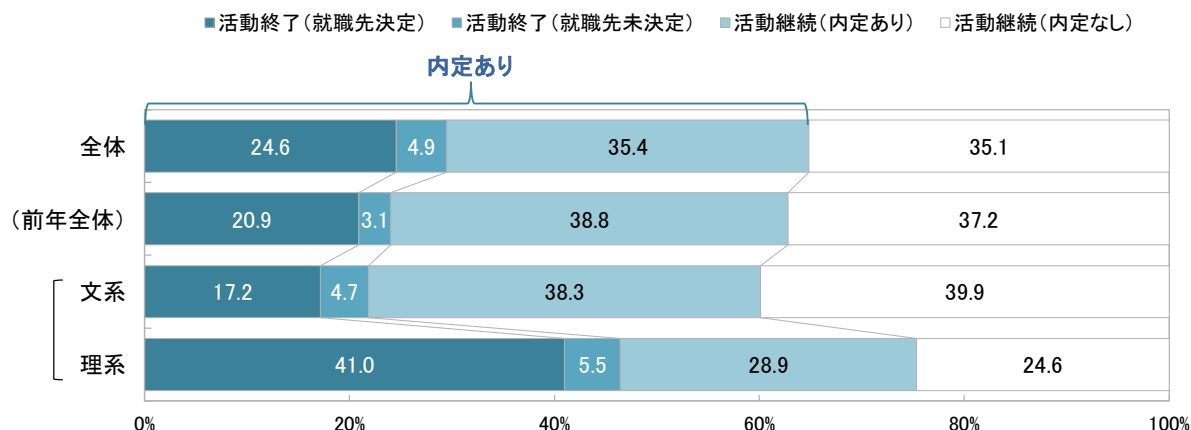
※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~26卒は6月

モニター学生全体を分母にして活動状況の分布を見ると、調査時点で就職先を決定して就職活動を終了した者の割合は24.6%。前年同期(20.9%)より3.7ポイント増加した。複数内定を保留しているなど未決定である者(4.9%)を合わせると、終了者の割合は29.5%になる。

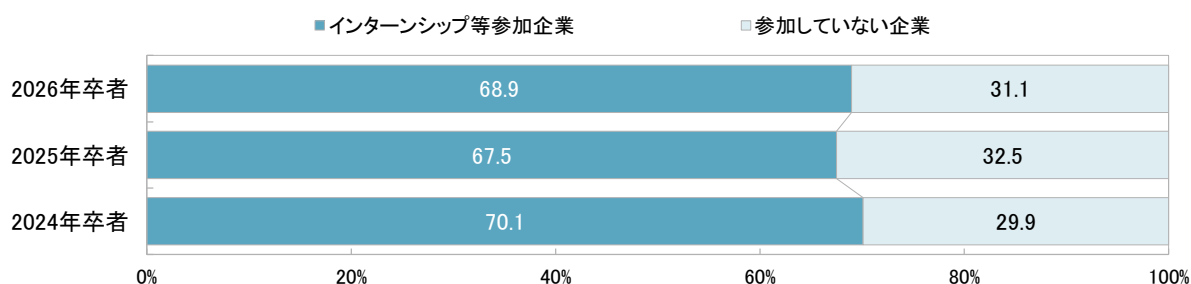
内定を持ちながら活動をする学生が全体の35.4%で、未内定学生35.1%とほぼ同数。

活動状況の分布は文理による差が大きく、文系の終了者は2割ほどであるのに対し(計21.9%)、理系学生は4割以上が終了したと回答した(計46.5%)。

<活動状況の分布>



<内定を得た企業のインターシップ等参加>



※1日以内のプログラムも含む

内定を得ている学生に内定企業の業界を尋ね、上位業界をまとめた(全40業界。複数回答あり)。最も多いのは「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」(31.2%)で、2位の「調査・コンサルタント」(15.1%)を大きく引き離す。文理とも3割を超えており、文理問わず多くの内定が出ている様子が見て取れる。

3位「建設・住宅・不動産」(13.9%)、4位「人材サービス・人材紹介・人材派遣」(11.8%)と続き、4位までは前年と同じ並び。

<内定を得た業界(上位5業界)>

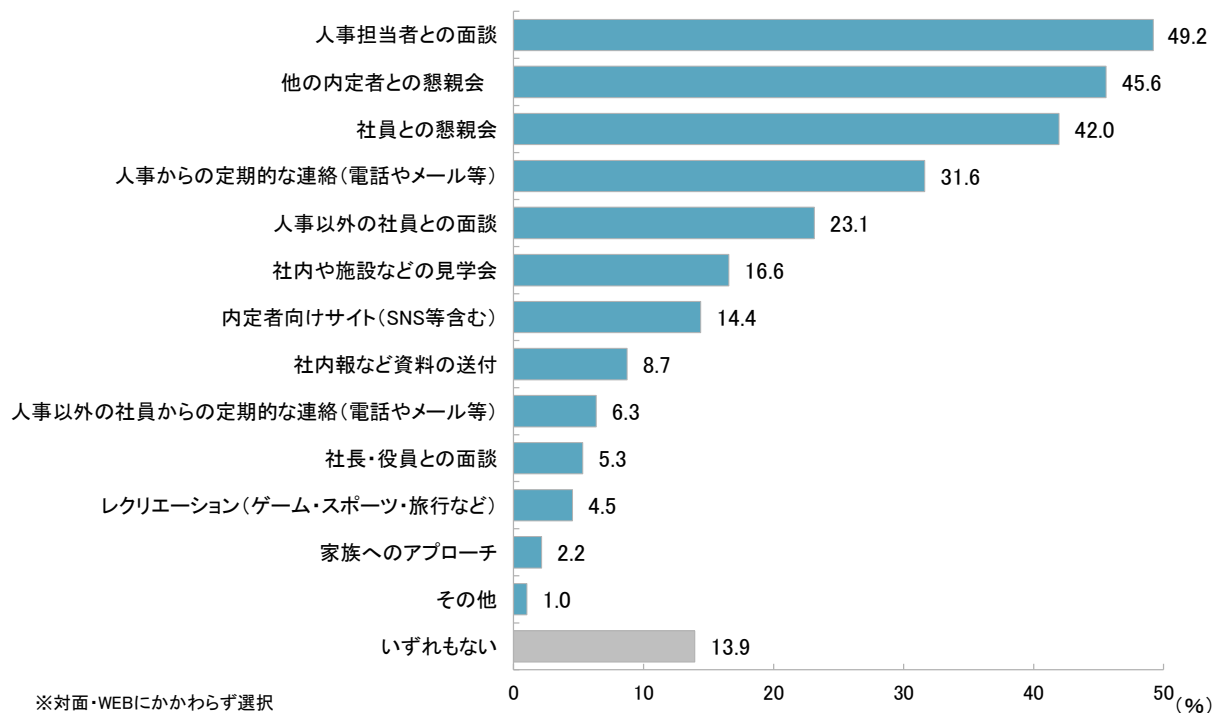
全 体		文 系		理 系		
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト①	31.2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	31.0	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	31.4
2	調査・コンサルタント②	15.1	調査・コンサルタント	16.5	自動車・輸送用機器	17.9
3	建設・住宅・不動産③	13.9	建設・住宅・不動産	15.2	電子・電機	17.0
4	人材サービス・人材紹介・人材派遣④	11.8	人材サービス・人材紹介・人材派遣	14.7	医薬品・医療関連・化粧品	12.9
5	情報・インターネットサービス⑩	9.3	銀行	12.8	調査・コンサルタント	12.6

※○の中の数字は前年同調査の全体順位

内定後に企業からフォローを受けた経験を尋ねた。最も多いのは「人事担当者との面談」で約半数が選んだ(49.2%)。「他の内定者との懇親会」(45.6%)、「社員との懇親会」(42.0%)も4割台。

「いずれもない」は13.9%にとどまり、何かしらのフォローを受けた学生が大半だ。不安を解消し入社を決断してもらえるよう、早くも企業が様々なかたちで内定者フォローを始めている様子がうかがえる。

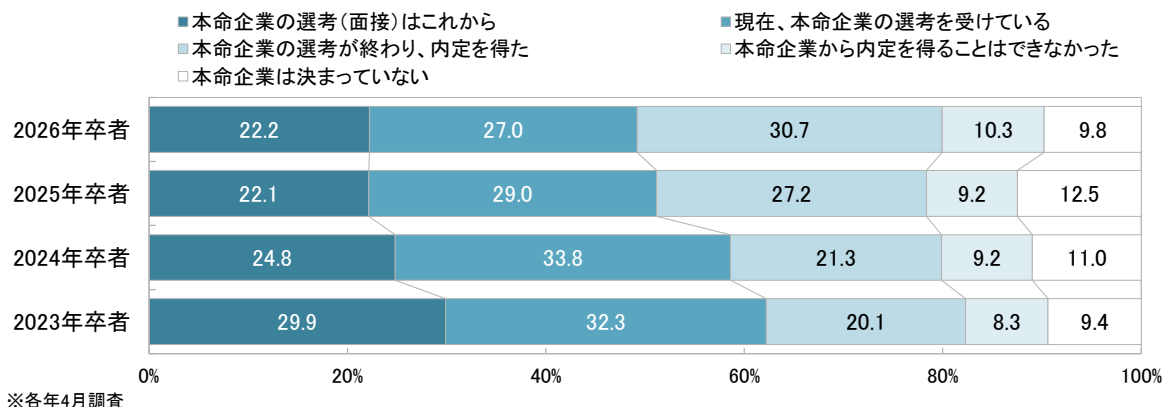
<内定を得た企業から、内定後に受けたフォロー>



5. 本命企業(第1志望)の選考状況

これまでに最も入社したいと思った企業=本命企業の選考(面接)が、どこまで進んでいるのかを尋ねた。応募前やESの結果待ちなどで「本命企業の選考(面接)はこれから」という回答は全体の約2割(22.2%)。「現在受けている」が3割弱(27.0%)。最も多いのは「選考が終わり、内定を得た」(30.7%)で、「内定を得ることはできなかった」(10.3%)を合わせて41.0%が、「本命企業の選考が終わった」と回答した。この比率は年々上昇しており、この指標からも就職戦線の進行の早さが読み取れる。

<本命企業(第1志望)の選考状況>



6. 就職活動継続学生の動向

内定保持者を含め就職活動を継続している学生（モニター全体の70.5%）の動向を確認したい。

現時点の志望業界を5つまで選んでもらったところ（全40業界）、最も多いのは「情報処理・ソフトウェア」（16.3%）で、ほぼ同率で「情報・インターネットサービス」が続く（16.2%）。IT業界の人気は序盤から変わらず、とりわけ理系男子において志望者が多い。

文理別に見ると、文系は「銀行」や「官公庁・団体」の順位が高く、理系はITの他にメーカーが上位に多い。理系男子の3位に「電子・電機」、4位に「自動車・輸送用機器」など。理系女子は「医薬品・化粧品」「水産・食品」「素材・化学」がそれぞれ3割を超え人気集中している。

<就職活動継続者の志望業界（上位10業界）>

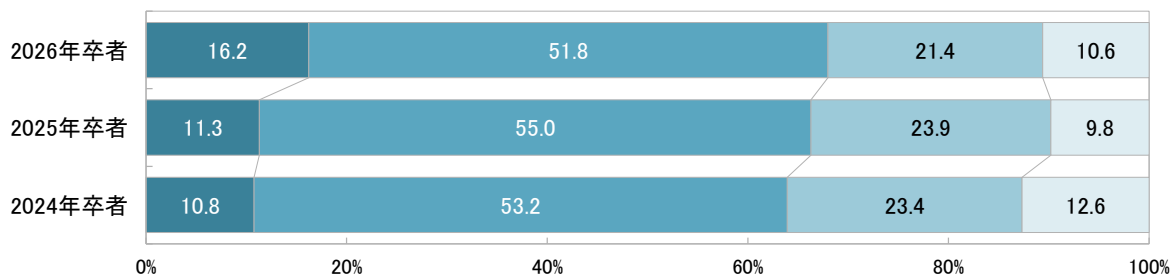
		※5つまで選択 (%)							
	全体	文系男子		文系女子		理系男子		理系女子	
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト① 16.3	銀行 22.5	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 17.8	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 28.9	医薬品・医療関連・化粧品 39.3				
2	情報・インターネットサービス④ 16.2	官公庁・団体 18.1	官公庁・団体 16.0	情報・インターネットサービス 22.7	水産・食品 31.0				
3	官公庁・団体⑤ 15.9	情報・インターネットサービス 15.0	情報・インターネットサービス 15.4	電子・電機 20.3	素材・化学 19.0				
4	銀行② 14.8	調査・コンサルタント 13.8	銀行 14.8	自動車・輸送用機器 18.0	官公庁・団体 19.0				
5	水産・食品③ 10.6	商社（総合） 13.1	マスコミ 14.5	素材・化学 14.8	情報・インターネットサービス 14.3				
6	商社（総合）⑭ 9.9	建設・住宅・不動産 11.9	商社（専門） 9.2	機械・プラントエンジニアリング 13.3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 13.1				
7	調査・コンサルタント⑨ 9.8	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 10.6	建設・住宅・不動産 8.9	精密機器・医療用機器 11.7	農業・林業・鉱業 10.7				
8	電子・電機⑨ 9.7	水産・食品 8.8	保険 8.6	調査・コンサルタント 10.2	電子・電機 9.5				
9	医薬品・医療関連・化粧品⑬ 9.5	運輸・倉庫 8.8	エンターテインメント 8.6	通信関連 10.2	商社（総合） 8.3				
10	建設・住宅・不動産⑥ 9.3	信用金庫・労働金庫・信用組合 8.8	ホテル・旅行 8.3	商社（総合） 9.4	医薬品・医療関連・化粧品 9.4				

※○の中の数字は前年同調査の全体順位

内定を持ちながら就職活動をしている学生（全体の35.4%）に、内定企業をどう位置付けているのかを尋ねた。「満足度が高く、納得感もあるので、この企業に入ると思う」と、ほぼ入社を決めている学生は前年より増えたが、1割台にとどまる（11.3%→16.2%）。最も多いのは「それなりに満足しているので、他に内定が出なければ納得して入ると思う」で、過半数に上る（51.8%）。入社に前向きながらも、本命企業の結果次第とする学生が多いことがわかる。

<内定を得ている企業の位置づけ>

- 満足度が高く、納得感もあるので、この企業に入ると思う
- それなりに満足しているので、他に内定が出なければ納得して入ると思う
- 満足度は高くないが、他に内定が出なければ、この企業に入ると思う
- あくまで押さえであり、実際にこの企業に入ることはないと思う

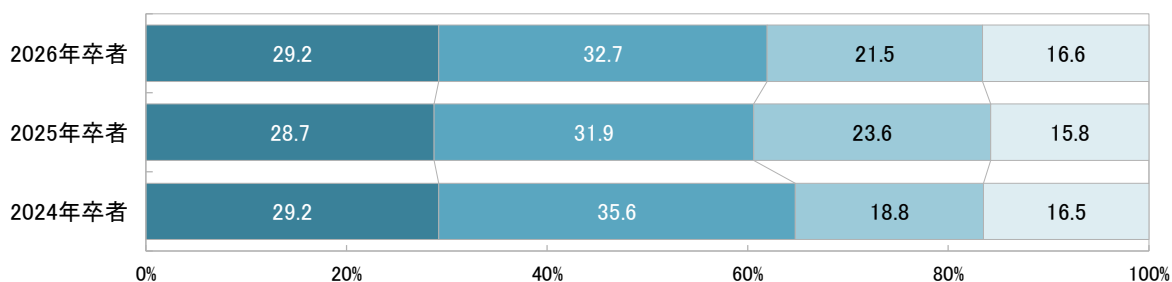


内定保持者を含め就職活動を継続している学生(全体の70.5%)に、就職活動をどのように進めていくかという方針・戦略を尋ねた。最も多いのは、「これまでに興味をもった企業(エントリーした企業)を中心に活動する」(32.7%)。僅差で「新たな企業を探しながら、持ち駒企業の幅を広げていく」が続く(29.2%)。選考が進み、企業を絞って活動する学生がいる一方で、受験企業を広げることを視野に入れ、意欲的に新しい企業を探そうという姿勢の学生も見られる。

調査時点で選考中の企業数は平均4.2社。前年同期(5.3社)より少なく、数を増やす必要性を感じている学生もいるだろう。

<今後の就職活動の方針・戦略>

- 新たな企業を探しながら、持ち駒企業の幅を広げていく
- これまで興味をもった企業(エントリーした企業)を中心に活動する
- 現在選考が進んでいる企業に絞って活動する
- 志望度の高い企業に絞って活動する

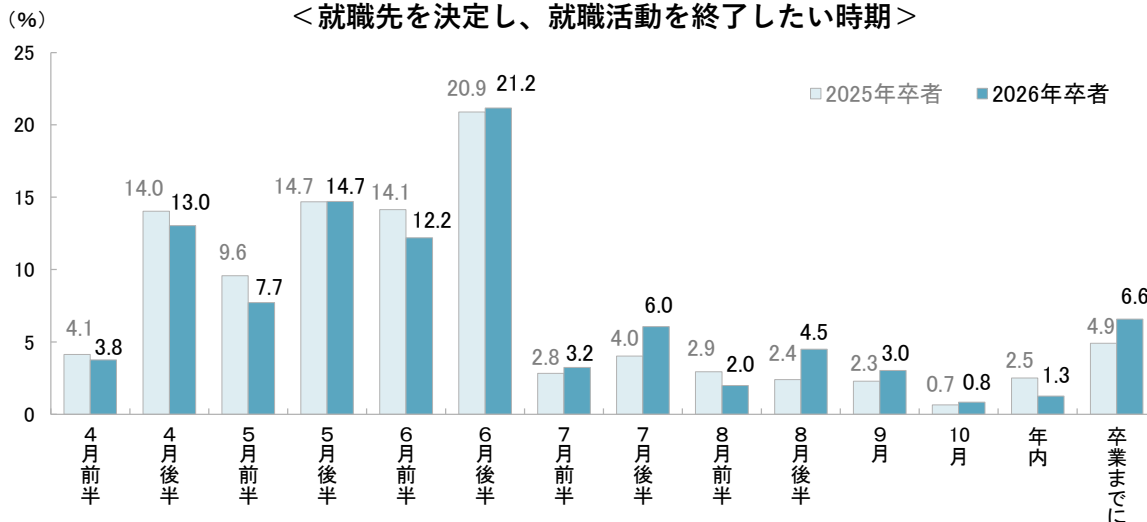


(社)

	全体	2025年卒者	2024年卒者	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
現在選考中の企業数	4.2	5.3	5.6	4.7	4.3	2.8	3.6
今後のエントリー予定社数	3.3	3.5	4.1	3.8	3.5	2.4	2.4
今後の会社説明会参加予定社数	2.9	3.1	3.3	2.9	3.0	2.9	1.9
今後のエントリーシート提出予定社数	3.8	4.0	4.3	4.1	4.2	2.5	2.6

就職先を決定して就職活動を終了したい時期は、今年も「6月後半」が最多(21.2%)。ここまで前年を上回るペースで進行しているものの、選考解禁後の6月を終了時期の目安にしている学生が多い様子が見て取れる。一方で、7月以降を回答した学生が前年調査よりやや増えており、納得いくまで活動を継続したいと考える学生も一定数いる様子がうかがえる。

<就職先を決定し、就職活動を終了したい時期>

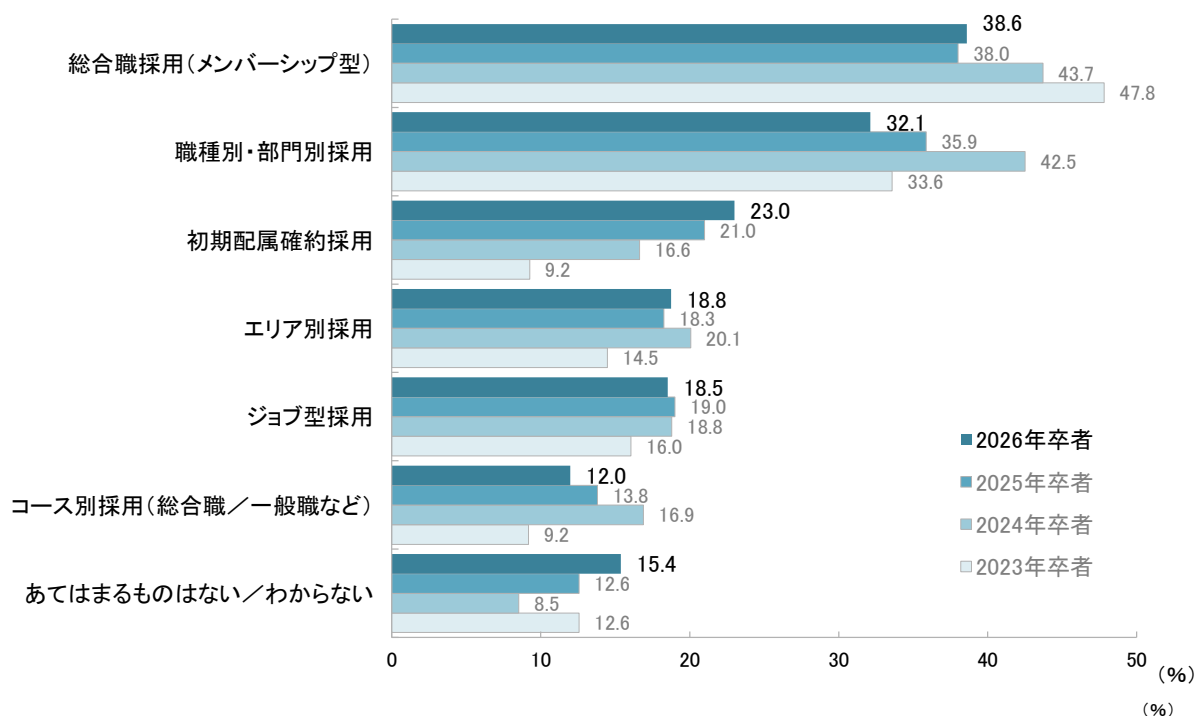


7. 魅力を感じる採用形態

学生がどのような採用形態に魅力を感じているのかを尋ねた。最も多いのは「総合職採用(メンバーシップ型)」で、3割強が選んだ(38.6%)。ただし、3年前は半数近くが選んでいたのに比べると、減少傾向が顕著(47.8%→38.6%)。「初期配属確約採用」は増加傾向が目立つ(9.2%→23.0%)。

属性別に見ると、文系男子は「総合職採用」が5割を超え圧倒的に高い(51.3%)。理系は男女とも「職種別・部門別採用」の割合が高い。そのほか、「エリア別採用」は女子で高く、「ジョブ型採用」は理系で高めなど、属性による志向の違いが表れている。

<魅力を感じる採用形態>



	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
総合職採用(メンバーシップ型)	38.6	51.3	39.7	27.7	16.8
職種別・部門別採用	32.1	20.8	29.6	42.3	55.5
初期配属確約採用	23.0	20.4	23.0	23.6	29.7
エリア別採用	18.8	14.6	27.6	6.7	23.9
ジョブ型採用	18.5	16.8	12.3	28.5	25.8
コース別採用(総合職/一般職など)	12.0	11.5	14.4	9.0	11.0
あてはまるものはない/わからない	15.4	16.4	14.2	16.1	14.8

■希望する採用形態について

- 総合職採用は、ジョブローテーションで様々な経験ができそう。 <文系女子>
- マネジメントに興味がある。また、希望給与に達するには総合職の必要がある。 <理系男子>
- 転勤などの責任を伴う方が、安定や高収入、キャリアアップが見込める。 <文系男子>
- 実際に入社して、その人の適性を見て配属先を決める方が、会社側も学生側も安心できると思う。 <文系女子>
- 職種別の方がキャリアプランを立てやすい。 <理系男子>
- 自分の専門領域に関係する仕事をしたい。また、能力によって評価される方が、意欲が高まる。 <理系女子>
- 配属ガチャに外れてしまうと、自分がやりたいことができない可能性が高い。 <文系男子>
- 変化をあまり好まない性格なので、何かしら確定されている方がいい。 <理系女子>
- 全国転勤は抵抗を感じるので、初期配属地域だけでも確約されていると魅力を感じる。 <文系男子>
- 地域での暮らしや、地域への貢献度を重視している。 <文系女子>